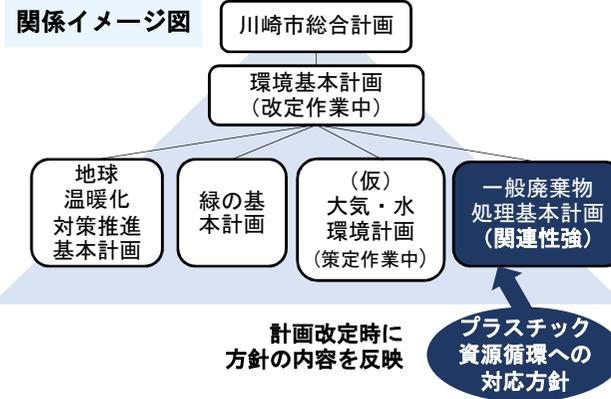




- プラスチックは、軽くて加工しやすい性状から、**私たちの生活には欠かせない素材**
- 一方、プラスチックごみは焼却処理に伴い温室効果ガス排出の大きな要因となっており、**脱炭素社会の実現に向けて解決しなくてはならない課題**
- 近年では**海洋プラスチック汚染が国際的な問題**となっており、SDGsにおいても目指すべき目標の1つとして掲げ、**地球規模での対応が必要**
- 本市では、循環型社会の構築に向け、資源循環の取組を推進しているが、今まで以上に**プラスチック資源循環の取組が必要**

## 1 本方針の位置付け

- ① 本方針では、プラスチックごみの課題に総合的かつ迅速に取り組むため、「**基本的な考え方**」や「**対応の方向性**」、「**当面の取組**」などについて取りまとめ、**プラスチック資源循環の取組を今まで以上に加速**
- ② プラスチックごみを取り巻く環境は近年急激に変化しており、今後も様々な動きが予想されるため、本方針との関連性が特に強い「**川崎市一般廃棄物処理基本計画（行動計画）**」等の改定の**タイミング**で、**国の動向等を踏まえた具体的な取組などを適宜反映**



### 脱炭素社会の実現との関連性

- ① 本市では、脱炭素社会の実現に向け「**かわさきカーボンゼロチャレンジ2050**」を令和2（2020）年11月に策定
- ② 2030年に向けた先導的なチャレンジの取組の1つとして、**プラスチック資源循環の取組を強化**

## 2 プラスチック資源循環に係る国内の動向

- 令和元（2019）年 5月 国が「プラスチック資源循環戦略」を策定
- 令和2（2020）年 7月 レジ袋有料化の義務付け制度が施行
- 令和2（2020）年 9月 国の審議会において戦略の基本的方向性を公表

### <国の戦略における各主体の役割>

構成	自治体	事業者	市民
1 プラスチック資源循環	普及啓発、分別回収、再生材等の率先調達など	技術開発・利用促進に向けたビジネスモデルの転換、再商品化など	ライフスタイル変革、分別協力・再使用など
2 海洋プラスチック対策	ポイ捨て防止、美化清掃等の主催、普及啓発など	マイクロビーズ削減、海で分解される素材の開発・利用など	ポイ捨て防止、美化清掃等の参加など
3 国際展開	廃棄物管理システム（収集・リサイクル等）の構築支援など	廃棄物の適正処理に係る技術協力など	—
4 基盤整備	各主体との連携協働、普及啓発、環境教育など	—	—

※国の戦略を踏まえて、本市において整理したもの

## 3 本市の状況

### <現状>

- ① 家庭系プラスチックごみのうち、**容器包装については分別・資源化しており、その他のプラスチックについても、廃棄物発電などの熱回収により100%有効活用**
- ② 事業系プラスチックごみは、**約半数を有効活用**
- ③ 一般廃棄物処理基本計画第2期行動計画（H30.3策定）において**プラスチックごみ対策を含む具体的施策を定め、取組を推進**

### <課題>

- ① 停滞する資源化率・分別率
- ② 温室効果ガスの排出要因
- ③ 海洋プラスチックごみに関する市民理解度の向上
- ④ 事業系プラスチックごみの3R及び適正処理の推進
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症の影響

### <本市の強み・特徴>

- 環境意識の高い市民・事業者や、優れた環境技術・環境産業等の集積

- ① 本市としては、国の戦略を踏まえ、**自治体として求められる役割や本市の強み・特徴を活かした取組を進めていくことが重要**
- ② プラスチックごみを取り巻く課題への総合的かつ迅速な対応に向け、「**プラスチック資源循環への対応方針**」を策定し**取組を促進**

◎方針の体系図

基本的な考え方	対応分野	対応の方向性	No	当面の取組	資源循環	温暖化	海洋汚染			
1 プラスチックごみの資源循環に加え、地球温暖化や海洋汚染問題への取組を総合的に促進し、川崎市内はもとより、地球規模での効果を目指す	I 資源循環・地球温暖化対策・海洋プラスチックの総合的な取組	○ プラスチック資源循環の取組は、 <b>環境負荷の少なくなるよう優先順位を考慮して実施する。</b> (①発生抑制、②再使用、③再生利用、④熱回収、⑤適正処分)  ○ プラスチックごみが海洋汚染につながらないよう、 <b>各主体と連携してまち美化の取組を推進する。</b>	1	○ <b>マイバック・マイボトルの利用促進や製品の適正包装の推進</b>	●	●	●			
			2	○ <b>グリーン購入の促進及び市内の率先行動推進</b>	●	●	●			
			3	○ イベント等におけるプラスチック代替製品の活用	●	●	●			
			4	○ 低CO <sub>2</sub> 川崎ブランド等による環境技術の普及に向けた取組の推進	●	●				
			5	○ <b>(仮称)脱炭素モデル地区を活用した取組推進</b>	●	●	●			
			6	○ 使用済小型家電の拠点回収・店頭回収の拡充	●	●				
			7	○ 農業由来の使用済プラスチック適正処理の推進	●		●			
			8	○ ゴミ発電事業等の余熱利用の推進	●	●				
			9	○ <b>廃棄物発電の新たな活用法の検討</b>	●	●				
			10	○ <b>プラスチック製容器包装の分別率向上に向けた取組の推進</b>	●	●	●			
			11	○ 事業系プラスチックごみの3R及び適正処理の推進	●	●	●			
			12	○ 事業系プラスチックごみの処理ルート拡大に向けた取組の推進	●	●				
			13	○ まちの散乱ごみ・美化対策のキャンペーンの実施				●		
			14	○ 東扇島西公園など川崎港内の公園等における散乱ごみ対策の推進				●		
			15	○ 川崎港における海面清掃事業の実施				●		
			2 環境意識の高い市民・事業者との連携や優れた環境技術・産業の活用を図ることにより、グリーンイノベーションの誘発など、大きな効果の発現を目指す	II 意識啓発・調査研究・国際展開等	○ <b>環境意識の醸成が取組を推進する上での基本</b> であることから、あらゆる世代に対し、 <b>環境学習・普及啓発の充実を図る。</b>  ○ <b>プラスチックごみ</b> （海洋プラスチックごみを含む） <b>の実態把握に努める。</b>  ○ <b>本市の市民や企業の有するこれまでの経験・ノウハウや技術などの活用について総合的な支援を行う。</b>	16	○ 市内公園緑地における散乱ごみ対策の推進・多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進			●
						17	○ 河川・水路における散乱ごみ対策の推進			●
18	○ ポイ捨て防止に向けた取組の推進						●			
19	○ まち美化の大規模キャンペーンの実施						●			
20	○ 川崎の優れた環境技術による国際貢献の推進	●				●	●			
21	○ 国際環境技術展など大規模イベントを活用した情報発信やイノベーションの促進	●				●	●			
22	○ 水環境中のプラスチックごみに係る実態把握						●			
23	○ 下水処理の過程におけるマイクロプラスチックの実態把握						●			
24	○ 燃やすごみに含まれるプラスチック類の実態調査	●				●	●			
25	○ ゴミゼロカフェなど市民参加の取組の推進	●				●	●			
26	○ 環境産業との連携	●	●	●						
27	○ 市民・事業者や、他都市など多様な主体と連携した取組	●	●	●						
28	○ 既存広報媒体や環境啓発施設を活用した環境イベント等の開催	●	●	●						
29	○ 水環境保全のための啓発イベント等の開催			●						
30	○ 環境総合研究所の立地条件を活かした環境教育・学習の実施	●	●	●						
31	○ SNSや啓発動画を活用した新たな普及啓発・環境教育の取組の推進	●	●	●						
32	○ 低年齢層への普及促進・学校教育を通じた海洋プラスチックごみ問題への意識醸成	●	●	●						
33	○ 国や他自治体等と連携した広域的な海洋プラスチック対策の推進			●						
34	○ 九都県市と連携した取組の推進	●	●	●						
35	○ <b>エコタウン推進事業の実施・水素戦略推進事業の実施</b>	●	●							
36	○ プラスチックごみの3Rの拡充に向けた調査・研究	●	●	●						

【取組No.1】 マイバック・マイボトルの利用促進や製品の適正包装の推進

- マイボトルの利用促進及びペットボトルごみの削減に向け、市内公共施設等に給水スポットを導入  
**(設置候補)** 環境啓発施設、庁舎 など
- 給水スポットの利用促進に向け、マイボトル等を利用して給水できるスポットを広く市民に情報発信  
**(発信手段)** 市HP、各種広報媒体 など



【取組No.9】 廃棄物発電の新たな活用法の検討

- 本市公共施設等への電力供給等の地域エネルギー事業を構築するための調査研究を実施  
**(調査内容)** ・廃棄物発電等を活用した本市公共施設等への電力の供給等の地域エネルギー事業スキームの構築  
・廃棄物発電の活用による市域の二酸化炭素排出量の大幅な削減方法
- 廃棄物発電を活用したEVごみ収集車等の拡充検討



橋処理センター (R5稼働予定)

【取組No.2】 グリーン購入の促進及び庁内の率先行動推進

- 職員自らのプラスチックごみの削減に向け、「川崎市プラスチックごみの削減に向けた庁内率先行動指針」に基づく取組を実践  
**(実施内容)** ・ペットボトル商品の会議室での利用原則禁止  
・職員のマイバッグ・マイボトルの持参  
・バイオマスプラスチック製品等の利用促進 など

【取組No.10】 プラスチック製容器包装の分別率向上に向けた取組の推進

- 地域と連携したごみの分別ルール・排出マナーの徹底を呼びかけ  
**(取組例)** ・大手スーパーや商店街と連携したPRキャンペーン  
・イベント開催 など
- プラスチック製容器包装の分別率向上に向け、一部地域を対象とした調査を行い、分別率向上に有効な取組についての効果を検証



【取組No.5】 (仮称) 脱炭素モデル地区を活用した取組推進

- 「(仮称) 脱炭素モデル地区」を活用して、プラスチック資源循環に係る取組を集中的に展開  
**(実施例)** ・給水スポットの導入  
・ポイ捨て禁止キャンペーン  
・環境学習 など



脱炭素アクションみぞのくち(脱炭素モデル地区)のイメージ図

【取組No.35】 エコタウン推進事業の実施・水素戦略推進事業の実施

- 川崎エコタウンの取組を国内外に情報発信し、国内外から視察の受入
- 使用済プラスチック由来低炭素水素を活用した実証事業



JR東日本(包括協定)との連携による水素鉄道車両実証実験イメージ(R3)

(環境省)地域連携・低炭素水素技術実証事業(~R3)